



今を大切に！

今年も残すところ残り半月となり、何となく慌ただしさを感じる毎日となってきました。ついこの間までは猛暑の中、半袖で生活していたのに、めっきり寒くなってしまいました。月日の経つのが本当に早く感じられます。

学校では2学期のまとめの時期を迎えるとともに、3年生にとっては、中学校生活も残り3ヶ月となってしまいました。本格的に受験に向けての準備として、面接練習や願書作成が始まり、気持ちも受験モードになってきました。今自分ができることを精一杯頑張り、進路実現に真正面から取り組んでほしいと願っています。1, 2年生にとっては、目標を見失うことなく冬期間を過ごすことが大切です。学習にしても部活動にしても、今やっていることの内容や質によって、来年になって得られる結果が大きく変わってきます。

「今を大切に」の心がけをもって生活してほしいものです。

◆ 授業参観・保護者会お世話になりました！ ◆

8日(木)の午後に、第3回の授業参観・学年保護者会を行いました。多数の保護者の皆様にご出席いただき、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



学年保護者会では、学習や生活の様子、冬休みの過ごし方、3年生では進路についての話もあったものと思います。

保護者の皆様に対して、学校側か

らたくさんのお願いをしましたが、事故のない有意義な冬休みを送ることができるようご協力の程、よろしくお願いたします。

薬物乱用防止教室を実施！

1日(木)の6校時に、2学年対象の薬物乱用防止教室を実施しました。講師に須賀川警察署生活安全課の古川淳子様をお招きし、薬物乱用の危険性や危険ドラッグについての話をいただきました。講話の後、DVDを見て、薬物に対する



正しい知識を学ぶことができました。薬物乱用は犯罪であり、1回の使用でも絶対ダメであること、自分の意志では止められず犯罪を起こす危険性が非常に高いこと、そして一生に関わってくることなど、とても勉強になりました。

2年生の皆さんには、「薬物乱用はダメ、ゼッタイ」という薬物乱用防止読本が配付になっていますので、ご家庭でもぜひご覧になってください。

《二中学生の活躍》

- 全国中学生人権作文コンテスト
輝煌大賞 須田日菜子(1年)
- 全国書画展覧会(書の部)
筆都大賞 大山奈々花(1年)
橋本 優希(3年)
特選1年 鴻野 歩
2年 岩瀬なずな 杉原 愛
志田 玲稀
3年 加藤 杏佳 佐藤 結里
仲沼 味沙 橋本 苑香
石井 瑞希
- 福島県愛鳥週間ポスターコンクール
福島県地方振興局賞 齊藤 なお(2年)
- 全国中学生作文コンクール
福島県佳作 宇佐見彩斗(3年)
- 明るい社会づくり作文コンクール
市長賞 関 祥之介(1年)
- 岩瀬地区中学校生徒造形作品審査会
特選 1年 須田日菜子・大村咲都理
村山 大・松井 未奈
星 七緒・春日菜留美
鴻野 歩・佐藤 彩
志波 愛華・春山 佳菜
荒井 七泉・小野寺蒼衣
2年 大沢 明子・志田 玲稀
菅野 未空・熊田 凜
阿部 光希・鈴木 千尋
鈴木 禎乃・大塚 澄音
添田 旺彦・村田 果蓮
三瓶 莉奈・中村 匠
齋藤絵梨香・佐藤 妃菜
3年 橋本 千奈・小池 百音
西間木華恋・物江 華花
石黒 新那・大柿奈々海
小熊 愛璃・佐藤 僚介
磯川 奈緒・八幡 優香
中島 賢一・馬飼野若菜
- 庄内町招待中学校インドアソフトテニス大会
女子団体 3位

須田さん(1年)法務大臣政務官賞!

全国中学生人権作文コンテストにおいて、本校の須田日菜子さん(1年)が、法務大臣政務官賞を受賞しました。

福島県の審査でも最優秀賞・福島地方法務局長賞を受賞しており、全国の約972,500人の応募の中から受賞となりました。「小さな人権」と題し、自分自身の幼少時の体験をもとに書いた内容が評価され、素晴らしい賞をいただくことができました。



関くん(1年)市長賞を受賞!

5日(月)に市仮設庁舎で、明るい社会づくり作文コンクールの表彰式が行われ、本校の関祥之介くん(1年)が最高賞の市長賞を受賞しました。

昨年度も荒川くん(2年)が市長賞、五十嵐さん(3年)が教育長賞を受賞しており、2年連続での素晴らしい受賞となりました。

表彰式では、市長さんから直接表彰していただき、緊張の中、受賞してきました。



「学びなおし」～12月10日にノーベル賞の授賞式がありました。昨年度、医学・生理学賞を受賞した大村智先生のエピソードです。先生は大学卒業後の5年間は夜間高校の先生でした。「ある日試験の問題用紙を配付しているときに、働きながら学ぶ生徒が入ってきました。しばらくして、大村先生がふと眼にしたものは、さっきまで働いていたときについた油まみれの指に握られたその生徒の鉛筆でした。」その一生懸命答案に向かう姿を見て、自分はこのように学んでいるかを自問、大学院での「学びなおし」を決意しました。これが世界的発見への研究が始まったきっかけです。(線虫の寄生による感染症治療)

◇学習内容を定着させるには◇

学習で得られる知識や技能は、定着してこそ意味をもってきます。定着させるために、「わかる・できる・身につく」ということを考えてみましょう。

○「わかる」というのは、授業で行われている内容がわかること。予習をして授業を受けるのと、まったくせずに初めて授業で聞くのでは、「わかり具合」に大きな差が出ます。だから予習が大切になってきます。

○「できる」とは、内容が理解でき、それに関する問題が出されたとき、自分の力で解けるということです。「わかった」で済ますのではなく、「できるようになる」までの問題練習が大切です。

○「身につく」とは、理解したことが定着することです。人間は忘れる動物ですから、「わかって理解した」ことでも、しばらくすると忘れてしまいます。だから繰り返し復習し、知識を確かなものにする。それが「身につく」ということです。

※家庭で学習する場合は、
「わかる」=予習
「できる」=問題練習
「身につく」=復習

のサイクルを考えての学習も大切です。

☆☆☆ ころころの窓 ☆☆☆

何の努力もしないで、いい結果を求めることがよくあり、こんな時に「虫のいい」や「虫がいい」という言葉をよく使われます。辞書には「虫のいい」とは「自分勝手である。自分の都合だけを考慮して他人のことなどはまったく考えない。自分勝手である」と記載されています。いい結果が得られる、得られないは別として、人として日々の努力が大切であることを心に留めておきたいものです。

機関誌「PHP」からの一篇を紹介いたします。

虫のいいこと

人間はとかく虫のいいことを考えがちで、雨が降っても自分だけは濡れないようなことを、日常平気で考えている場合が多い。別に虫のいいことを考えるのがいけないというのではないが、虫のいいことを考えるためには、それ相応の心構えが必要なのである。

雨が降ったら誰でも濡れる。これは自然の理である。しかし傘をさせば濡れないでもおられる。これは自然の理に順応した姿である。素直な姿である。

だから、自然の理をよく見極めて、これに順応する心構えをもった上ならば、どんなに虫のいいことを考えても構わないけれど、傘も持たないで自分だけ濡れないような虫のいいことを考えているならば、やがてどこかでつまづく。つまずいても構わないというのなら何も言うことはないけれど、人はとかく、つまずいたその原因を、他人に押しつけて自分も他人も不愉快になる場合が多いから、やはり虫のいいことは、なるべく考えない方がいい。

お互いに忙しい。忙しいけれど、時には静かに、自分の言動を自然の理に照らして、果たして虫のいいことを考えていないかどうかを反省してみたいものである。